

新型コロナウイルス感染症対策について

～ 登校日を向えるにあたって、学校における対策 ～

1、登校時の健康観察

健康観察表（家庭用）を用いて健康観察を実施する

- ① 密集を避けるため、登校場所を分散する

1年：正門 2年：正門 3年：南門 健康観察表を回収する。

- ② 37.5 前後の発熱、咳、鼻水、鼻づまり、のどの痛み、体のだるさなどの症状がないか健康観察を行い、生徒を教室に上げる。家で検温、記入を忘れたまたは、カードを忘れた生徒は、検温ブースで検温を行う。体温計は、1 回ごとに消毒して使用する。発熱、風邪の症状がみられた生徒は、教室に入室させずに早退させる。その際は、早退連絡票を持たせる。事後に家庭へ電話連絡する。

- ③ 各クラスで改めて出欠を確認する。健康観察表（家庭用）は、終学活まで生徒に返却する。

※教職員についても、毎朝、自宅で体温を測定し、感染症拡大防止の観点から、発熱等かぜ症状がある場合には、出勤を控える。

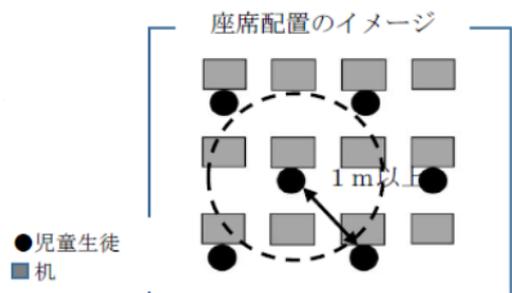
<クラスター（集団）の発生のリスクを下げるための3つの原則>

- ① **換気を励行する**：窓のある環境では、可能であれば2方向の窓を同時に開け、換気を励行します。ただ、どの程度の換気が十分であるかの確立したエビデンスはありません。
- ② **人の密度をさげる**：人が多く集まる場合は、会場の広さを確保し、お互いの距離を1～2m程度あけるなどして、人の密度を減らす。
- ③ **近距離での会話や発声、高唱を避ける**：周囲の人が近距離で発声するような場を避けてください。やむを得ず近距離で会話が必要な場合には、自分から飛沫を飛ばさないよう、咳エチケットの要領でマスク*を装着するかします。

2、教室内の換気・配席の工夫等

可能な限り窓は常時開けておく。これによりがたい場合は、1時間に1回、5～10分程度換気する。その際、原則として2方向の窓を同時に開ける。ただし、室温に注意し、必要に応じ、生徒の服装についても配慮する。

- 教員は、マスク若しくは代用品（ハンカチ、手ぬぐいなど）を着用することとし、生徒までの距離を可能な限り一定程度（2m程度が望ましい）離す。
- 教室等において、座席間を離して着席するなど、できるだけ生徒間の距離を離すよう配慮する。
- 生徒同士、職員が近距離での会話や発声を避けるようにする。飛沫を飛ばさないよう、咳エチケットの要領でマスクを装着したりするなどする。



2、消毒液を使った清掃の実施

教室、階段、トイレなどの生徒、教職員が接触した箇所については、生徒が入れ替わるごとに、教職員がそれぞれ消毒液を使って清掃する。